

普及現地情報

発信年月日:令和7年(2025年)7月18日
所 属 名:東近江農産普及課
番 号: D25010
発 信 者 名:猪田、軸屋、近藤、大屋



新たなタマネギ収穫機の実演会を開催しました！

令和7年7月1日に東近江市大森町の圃場において、しがのスマート農業技術ジャンプアップ促進事業を活用し、大規模タマネギ生産を想定した「小型オニオンハーベスター」を用いた収穫実演会を開催したところ、集落営農法人および関係機関を含め約20名の参加がありました。

東近江市八日市地域では令和7年秋から国営ほ場整備事業が始まり、今後200haを超える高収益作物栽培に取り組む計画となっています。すでに高収益作物の推進品目のひとつとしてタマネギを選定しており、6集落営農法人が20～180aの規模で栽培されています。

現在法人では、栽培面積に応じた機械の導入が徐々に進んでいます。特に、時間がかかる収穫作業においては、2条の掘り取り機+ピッカー作業体系で行われていますが、今後の面積拡大を見込んでディガー(根切り機)+ハーベスター体系の実演会を開催しました(図、写真)。

歩行型ではなく、乗用管理機を使用した体系であるため、作業強度が低く、時間も短縮できることがわかりました。また、圃場の状況次第ではハーベスターのみで収穫できることや、従来のハーベスターよりも小型であるため、価格が抑えられることをメーカーから説明していただきました。

ハーベスターは、試作段階のため発売は少し先になりますが、参加者からは「収穫が楽になるため、購入を検討したい」との声が上がりました。

今後、当課として面積に応じた機械化体系について提案しつつ、タマネギの面積拡大に向けた活動を進めていきます。

	規模	葉切り・引抜・根切り・堀上		拾い上げ
実証区	3～10ha			
		根切り機	掘取機デガー	小型オニオンハーベスター
慣行区	2ha以下			
		収穫機		歩行型たまねぎピッカー



図 規模に応じた作業機

写真 実演会の様子